

報道発表資料の配付日時 7月4日(火) 10時00分

発表項目 (行事名)	第45回「全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」入賞者の決定について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>○全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール 全日本中学生水の作文コンクールは、「水の週間(8月1日から7日間)」の関連行事として、国が毎年実施しており、道としてもこのコンクールと連携して、昭和54年から北海道地方コンクールを実施し、今年で45回目となります。</p> <p>○北海道地方コンクール受賞者 応募のあった132編の中から、最優秀賞(1編)、優秀賞(1編)、入選(5編)及び学校賞(3校)を決定し、北海道知事から賞状及び副賞を贈呈します。 なお、賞状及び副賞は発送済みで、個人賞(最優秀賞、優秀賞及び入選)の賞状及び副賞は所属中学校を通して伝達することとしております。</p> <p>○全日本中学生水の作文コンクール中央審査 最優秀賞及び優秀賞は、全日本中学生水の作文コンクール中央審査の対象として国土交通省に推薦しています。 なお、中央審査において受賞した際は、再度、受賞内容等を発表させていただきます。</p>		
参考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道地方コンクールの概要・・・資料1</li> <li>・入賞者一覧・・・・・・・・・・資料2</li> <li>・最優秀賞作品・・・・・・・・・・資料3</li> </ul>		
報道(取材)に当たってのお願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このコンクールは、北海道として、「水の週間」を広く啓発するための行事です。</li> <li>・これからの北海道を担う若い世代に水の大切さや北海道の自然、世界の環境問題などを考えてもらう絶好の機会としてこのコンクールの存在や意義を広くアピールしたいと考えています。</li> <li>・今回の入賞者の決定について積極的な報道をしていただきますようお願いいたします。</li> </ul>		
他のクラブとの関係	<p>同時配付 ※道政記者クラブ、空知総合振興局記者クラブ、上川総合振興局 同時レク 記者クラブ、ホツ総合振興局記者クラブ、釧路総合振興局記者クラブ</p>		
担当 (連絡先)	<p>総合政策部計画局土地水対策課課長補佐 福井 TEL ダイヤルイン 011-204-5135 (内線23-713)</p>		

## 第45回「全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」の概要

## 1 目的

「水の週間（8月1日～7日）」の行事の一環として国が実施する「全日本中学生水の作文コンクール」と連携し、北海道においても次代を担う中学生を対象に「北海道地方コンクール」を実施し、広く水に対する関心を高め理解を深めることを目的とする。

## 2 応募要領

## 第45回「全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」応募要領

国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるようにするため、水循環基本法（平成26年7月施行）第10条において、8月1日を「水の日」と定め、あわせて、国では、この日からの一週間を「水の週間」とし、「全日本中学生水の作文コンクール」を実施するなど、毎年様々な行事を行っています。

北海道においても、この「全日本中学生水の作文コンクール」と連携し、次代を担う道内の中学生を対象として、「北海道地方コンクール」を次のとおり実施します。

なお、北海道地方コンクールの最優秀及び優秀作文は、「全日本中学生水の作文コンクール」の中央審査に推薦します。

## 1 テーマ「水について考える」（題名は自由です。）

水は、地球上の全ての生命の源であり、特に私たちの生活の営みや農業・工業等にとって不可欠なものです。一方、水は、「恵み」の一面もあれば、豪雨や洪水、渇水などの「災い」という一面もあります。

また、私たちの暮らしは、水によって支えられていますが、地球上の水は無限ではありません。私たち一人一人が水循環の重要性を理解し、水との関わり方を学んで、水の恩恵を享受し続けるために、何をすべきか考えることが重要です。

あなたにとって、水とはどんなものですか？暮らしの中での体験や授業で学んだこと、調べたことをもとに、水についての考えを作文にまとめてみませんか？

## 2 主催・後援

主 催 水循環政策本部、国土交通省、北海道

後 援 北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道中学校長会

## 3 応募資格 令和5年度（2023年度）に在学中の道内の中学生（中学生と同じ学齢の者を含む。）

## 4 原 稿 400字詰原稿用紙2枚以上4枚以内（800字～1,600字以内）で日本語により表記された個人作品に限ります。

## 5 応募期限 令和5年（2023年）5月2日（火）（当日消印有効）

6 応募方法 作文には、本文の前（原稿用紙枠内）に「題名」、「学校名（ふりがな）」、「学年」、「氏名（ふりがな）」を記入し、次の送付先に送付してください。  
なお、個別の題名は自由です。7 送 付 先 〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目  
北海道総合政策部計画局土地水対策課調整係（TEL 011-204-5135）8 審 査 5月に「北海道地方コンクール」の審査を行い、入賞作文を決定します。  
なお、最優秀賞及び優秀賞を受賞した作文は国土交通省が実施する「全日本中学生水の作文コンクール」中央審査に推薦します。9 賞及び賞品 (1) 最優秀賞 1名（賞状及び副賞）  
(2) 優 秀 賞 1名（賞状及び副賞）  
(3) 入 選 5名程度（賞状及び副賞）  
(4) 学 校 賞 3校程度（賞状及び副賞）

## 10 賞の発表 賞は6月に発表し、所属中学校を通じてお知らせするとともに、賞状及び副賞を送付します。

11 使用権等 (1) 応募作品は自作の未発表のものに限ります。  
(2) 応募作品の使用権は主催者に帰属します。  
(3) 応募作品の返却は行いません。

## 12 そ の 他

(1) 入賞者については、入賞作文の内容、学校名、学年及び氏名を国土交通省及び都道府県のホームページや作品集に掲載するほか、報道機関を含めた関係者へ提供しますので、予めご了承の上、ご応募ください。

(2) 本コンクールの応募作文に記載される個人情報、本コンクールの運営に必要な範囲内で利用します。  
また、応募者の同意なく、本来の利用目的を越えて転用することはありません。

## 参 考

国土交通省が実施する中央審査の賞（予定）

（１）最優秀賞 内閣総理大臣賞１名（賞状及び副賞）

（２）優 秀 賞 厚生労働大臣賞、農林水産大臣賞、経済産業大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、全日本中学校長会会長賞、水の週間実行委員会会長賞、独立行政法人水資源機構理事長賞、シャワーズ賞 各１名  
中央審査会特別賞（賞状及び副賞）

（３）入 選 30名程度（賞状及び副賞）

（４）佳 作 上記受賞者を除く全員（記念品）

※ 最優秀賞、優秀賞受賞者の表彰は８月頃に東京都内で行われます。

## 第 45 回「全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」入賞者一覧

## 最優秀賞

作 品 名	氏 名	学校名及び学年	管内
大切な遊水地と共に	水島 颯一	砂川市立砂川中学校 3年	空知

(敬称略)

## 優秀賞

作 品 名	氏 名	学校名及び学年	管内
計り知れない水の力	彭 由伊	市立札幌開成中等教育学校 3年	石狩

(敬称略)

## 入 選

作 品 名	氏 名	学校名及び学年	管内
水の記憶	青戸 愛唯	北海道教育大学附属釧路義務教育学校 9年	釧路
水循環を守るには	小野 芭菜	北見市立相内中学校 3年	林-ツ
命と水	戸田 匠翔	岩見沢市立北村中学校 3年	空知
本当の宝物	原田 一步	岩見沢市立北村中学校 3年	空知
夢	横山 民桜	北見市立相内中学校 2年	林-ツ

(敬称略、五十音順)

## 学校賞

学 校 名	管内
旭川市立北星中学校	上川
岩見沢市立北村中学校	空知
北見市立相内中学校	林-ツ

(敬称略、五十音順)

## 大切な遊水地と共に

砂川市立砂川中学校 三年 水島 颯一

私が住んでいる砂川市には、遊水地がある。私の家の近くにあり、子どもの頃から自転車で一周したり、釣りをしたりと親しんできた場所である。近くを流れる石狩川の氾濫を防ぐために造られたものだ。石狩川は、大雨により過去に何度も氾濫し、この砂川も被害を受けてきた。そのため、蛇行する川を工事で直線にし、残された蛇行跡を遊水地にしたのである。大雨で川の水量が増えると、一時的にこの遊水地に水を引き入れ、水量を減らして洪水を防ぐ役割を持っている。

川を管理している人々のこうした努力のおかげで、今では石狩川が氾濫して被害を受けるということはなくなった。そのためか、石狩川や遊水地について、私自身あまり関心を持っていなかった。小学校の学習で、石狩川の氾濫の歴史や遊水地の役割などを学習したが、それきり考えることもなかった。だが、中学校でSDGsを学習する中、水を大切にすることが目標の一つに掲げられていることを知った。その根拠となるようなアフリカの子どもたちが泥水を飲んでいる映像、干ばつによる水不足の実態をテレビで観ているうちに、このままでいいのだろうか、改めて水について考えるようになった。

水は、私たちの命や暮らしを支える大切なものであり、みんなの手で守るべきものなのだと強く感じた。

私たち日本人にしても、水道の無駄使いに始まり、下水道や河川の汚染、水不足など、深刻な水問題を抱えていることもわかった。水の管理はその専門家に任せておけばよい、自分一人くらい水をどう使おうが関係ない、という意識ならば、すぐに改めるべきだ。いつ水が使えなくなってもおかしくない危機が迫っているからだ。水が使えなくなれば、命にかかわる。だから、他人任せではなく、水を使う私たちこそが、共に水を守っていかなければならないのだ。私も、まず家で水道の節水や油を流さないことを確実にを行うことにした。

遊水地に関わっても、その役割を理解し直すことができた。ただの水辺ではなく川の氾濫から私たちを守る大切な存在なのだ。この遊水地には、砂川に暮らしてきた人たちや石狩川を管理する人たちの苦勞の歴史が刻まれている。遊水地ができた背景にある、人の思いや歴史を私たちが受け継ぎ、この遊水地をこれからも大切にしていこうと思う。

遊水地は、私たちの暮らしを豊かにする役割も持っている。以前、遊水地の周りに桜の苗木を植えたことや、周りのゴミ拾いに参加したことがあった。当時は活動の目的など考えたこともなかったが、それは水辺の環境を整え、美しい景観にしていく活動だったのだ。水が、私たちの暮らしに豊かさをもたらすのだ。

今、遊水地は、「砂川オアシスパーク」として、夏はカヌーやヨット、冬はワカサギ釣りなどが楽しめる私たちの憩いの場となっている。水辺を彩る四季折々の景色は素晴らしい。桜の花に囲まれた水辺や、夕陽の中を渡り鳥が飛んでいく風景に心を奪われる。

水という存在が、私たちの命を育み、暮らしをより豊かなものにしてくれる。水の恩恵に感謝したい。だからこそ、水を大切にしながら水を守っていくこと、これが今の私たちに必要なことなのである。

先日も久しぶりに遊水地を訪れた。桜もそろそろ咲きそうである。帰る前に、落ちていたゴミを拾ってから帰った。自分が遊水地に植えた桜が、大きくなって水辺を彩っていく姿を、これからもずっと眺めていきたい。

この遊水地の環境を守る一人として、大切な水を守る一人として、これからもゴミ拾いなど小さなことから取り組んでいこうと思っている。